

2007

1998年7月号で創刊し、2001年Vol.22を最後に休刊していた『ぼてじゃこ倶楽部』が復活



2007年6月号(創刊号)地元で4代続く書店「文泉堂」の親子3世代にご協力いただきました

2008

ロゴがリニューアル。ぼてじゃこ(タナゴ)をモチーフにしたキャラクター、ぼてじゃ&ぼてこが誕生



2008年11月号秋色に染まった近江孤蓬庵。写真は近江八景を模した池泉回遊式の庭園です



2009年10月号米原市立河南中学校の生徒や先生約150人が集合。「恩師の姿を見つけました」などの声が届きました

2010

1市6町(旧長浜市、東浅井郡虎姫町、東浅井郡湖北町、伊香郡高月町、伊香郡木之本町、伊香郡余呉町、伊香郡西浅井町)が合併して長浜市が誕生



2010年11月号県立長浜北高等学校100年の歴史を伝えようと、戦時下の学校生活を写した写真を使用

2011

NHK大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」が放送。浅井三姉妹ゆかりの地として注目が集まる



2011年2月号ワカサギ釣りがシーズンを迎えた冬の余呉湖。親子の温かみが伝わる表紙になりました

2012

『ぼてじゃこ倶楽部』創刊5周年を迎える



2013年3月号長浜の一大イベント長浜盆梅展。幹肌の力強さ、柔らかな枝ぶりを伝えるためアップで撮影

2014

市役所新庁舎が完成



2013年9月号里山の自然を描く切り絵作家、早川鉄兵さんとコラボ。作品内にはぼてじゃ&ぼてこの姿も

2015

『ぼてじゃこ倶楽部』100号発刊



2014年11月号長浜市高月町に伝わる観音像。煤や傷からは、数百年の歴史が伝わってきます

2016

県立長浜高等学校と県立長浜北高等学校が統合し、「(新校)県立長浜北高等学校」が誕生  
長浜曳山まつりの曳山行事がユネスコ無形文化遺産に登録



2016年10月号表紙・巻頭特集を見てアート・イン・ナガハマに行った読者から反響がたくさん届きました



2017年4月号巻頭特集では、ユネスコ無形文化遺産登録に向けた地元の活動をメインに紹介しました



全国ベスト8だった昨年度を踏まえ、国体へ出場したいと、部員・マネージャー合わせて18人が気持ちを一つにしています

目標は毎年全国ベスト4です!



### 県立長浜北星高等学校水球部 日本代表選手を輩出 守りの硬さを武器に勝利を収める

2012  
5月号

厳しい練習を物語る厚い胸板と、瞳に宿した闘志が印象的だった県立長浜北星高等学校水球部。当時のキャプテン吉田拓馬選手は現在、日本代表として活躍。その他の選手ともつながりがあり、時折顔を見せるときもあるそう。藤田悦司さんから監督が代わり、現在は中原洋明さんが指揮を取ります。スイムの練習量を増やし、3時間の練習時間(冬場)のうち1時間半は泳いでいます。変わらぬディフェンス力と、培った体力で上を狙います。



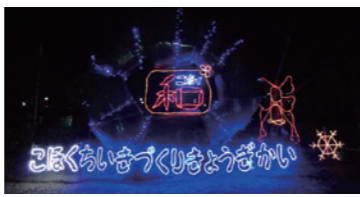
長浜北星高等学校水球部監督中原洋明さん「成田新治初代監督(現産根工業高校教員)と藤田悦司前監督(現河瀬高校教員)がキーパー出身だった影響で、しっかり守ってスコアでの勝利を目指しています」

### 巻頭特集 巻頭特集で振り返る10年の歩み

## 地域の皆さまに支えられて『ぼてじゃこ倶楽部』

### こほくイルミの広場 湖北の冬の風物詩として定着 地域のつながりを生み出し続ける

地域のつながりの象徴として、2012年に再スタートしたこほくイルミの広場。第4回取材した当時は、環境に優しい太陽光発電で点灯していることや、地域貢献活動として湖北中学校が関わっていることを伝えました。「すべての自治会や小学校の各学年で作品をつくるなど、予算をかけるより、地域住民全員が参加できる形を目指したい」とイベントを運営するこほく地域づくり協議会理事長の松山久夫さんは、未来を見据えます。



136基の電飾を点灯した2016年度のテーマは、「和〜みんな仲良くなれますように」。湖北中学校3年生の有志は、「和」の文字をモチーフにしたイルミネーションを制作しました

文/高崎千紗登 写真/編集室 デザイン/ABBEY ROAD

### 丸三ハシモト株式会社 絹弦メーカーとして世界へ 伝統と挑戦を両立する

「中国・上海市で開かれる楽器の見本市へ初出展する前に取材を受け、新事業を知ってもらう良いきっかけとなりました」と丸三ハシモト株式会社の橋本英宗さん。さまざまな出会いを経て、技術、流通などを確立していき、中国においても絹糸製造会社として高い評価を得ています。「和楽器ではなく、絹弦メーカーとして、さらなる海外進出を狙います」。1世紀以上の歴史を持つ老舗は、世界へと活躍の場を広げています。



2011  
5月号



「箏の弦を原点から見直すため、海外のさまざまな弦を知ってほしい」と橋本さん



丸三ハシモト株式会社 四代目橋本英宗さん「中国楽器の絃を手掛ける際は、そのつくり方や歴史を勉強するため、遠方の識者を訪問したときも。色々な方にアドバイスをいただき、軌道に乗せることができました」



取材時部員だったOBの一人が、高校の教員を目指し、今年度採用試験を受ける予定とのこと

全国を目指し、練習を重ねます!



### 伊香高等学校男子柔道部 2024国体強化拠点校に認定 一人でも多く、全国の舞台へ

2009  
5月号

「第31回全国高等学校柔道選手権大会」へ悲願の初出場を果たした直後に取材をした古豪・県立伊香高等学校男子柔道部。「突然の取材で驚きましたが、部員・保護者は大喜びでした。保護者が色々なところから『ぼてじゃこ倶楽部』を集めて、今も宝物にしているようです」と大橋成年先生は振り返ります。新チームへと移行し、県内ベスト4から陥落してしまった今、「団体はベスト4以上、個人はインターハイ出場者を2人輩出」が目標です。



伊香高等学校男子柔道部顧問兼監督大橋成年先生「『プレイヤーズファースト』という理念のもと、週1回地域の中学生、OBと練習をしているほか、12月と3月に天理遠征、5月と8月には名古屋遠征をしています」

# ありがとう! 10周年

2007年6月号で創刊した地域みっちゃく生活情報誌『ぼてじゃこ倶楽部』は、今号で10周年を迎えました。これもひとえに、『ぼてじゃこ倶楽部』を愛読してくださる地域の皆さまのおかげと、厚くお礼申し上げます。今号では、これまで巻頭特集でお世話になった6組を取材。気になるその後の姿を追いました。

### 塗師 渡邊嘉久さん 選定保存技術保持者に認定 新たな漆の可能性を探求

取材時、「長浜で育まれてきた漆塗りの技術や伝統を守り、受け継いでいくのが自分の使命」と語っていた渡邊嘉久さん。今年、県の選定保存技術保持者として認定されました。漆の可能性を模索したいという宣言通り、3年前から漆器の開発に取り組むほか、今年には新たに余呉漆復活プロジェクトを発足。中国からの輸入品に頼っている現状を受け、余呉産の漆を復活させようと活動を始めています。漆文化の発展、継承のため、渡邊さんの挑戦は続きます。

2014  
2月号



かつて長浜市常喜町で生産されていた漆塗りの椀「常喜椀」を調査し、復元した作品



渡邊仏壇店3代目 渡邊嘉久さん「『ぼてじゃこ倶楽部』を読んだ常喜町の高齢者から電話があり、「若い人知ってもらえるいい機会」と応援のメッセージをいただきました」

### 富田人形共遊団 小学生向けの教室を開講 未来の担い手を育成する

県選出無形民俗文化財に指定されている富田人形。その伝統を受け継いでいるのが、富田人形共遊団です。取材時紹介した地元の小学生や留学生への人形教室などは、引き続き実施。留学生は地域の協力のもと、長い人の場合、2カ月ほど滞在するそう。今年には新たにジュニアクラスを開講。小学3年生から6年生を対象に、月に2回指導する予定です。団長の阿部秀彦さんは、「団員を増やし、近松門左衛門の演目に挑戦したい」と意気込みます。

2013  
1月号



人形浄瑠璃を学んだ留学生たちは、7月開催の公演に参加予定です



富田人形共遊団 団長阿部秀彦さん「取材以降、団員が3人増えました。まだまだメンバーは募集中です。人形浄瑠璃は庶民の文化。ジーン姿で気楽に見られるものだ、地域の人知ってもらいたい」